

Lesson 15 Triple Stop Comp

Lesson 15 トリプルストップ・コンピング

今回は「コンピング」をやろう。

「コンピング」とは、バンドなどにおいて、メインで弾いている誰かのバックで伴奏をすることだよ。
これまでにやってきた E のダブルストップや、新たに A のダブルストップなど、全部 1 弦～3 弦だけで弾くよ。

(0:27)

以前学んだ 1 弦開放 E を交えたダブルストップに、A コード、そして E コードだ。

使うのは上の 3 つの弦だけだよ。

繰り返しになるけど、これはとてもクラシックなブルースコンピングで、誰かがソロなんかを弾いているときに、後ろでやるのもよし、もしくはこれ自体を一つのソロメロディとしてやるのもアリだね。

じゃあ、もう一度やってみよう。

-playing(1:02)-

(1:21)

ここから IV コード (A) に行くんだけど、人差し指 (コード E の時に押さえた 3 弦 1 フレット G#) を離して、3 弦開放 G (IV コードである A にとっての 7th) にして同じパターンを弾く。

-playing(1:30)-

かっこいい響きだね。

5 弦開放 A を弾きながらだよ。

そしてまた前のパターンに戻る。

じゃあ、(これらのパターンを使って) ブルースの冒頭を弾いてみるよ。

-playing(1:51)-

(2:20)

こんな感じで続くよ。

ところで、このパターンは開放弦をたくさん使うから、常に不要な弦が鳴らないようにしてやる必要があるよ。
試しにちょっとルーズに弾いてみるね。初心者になりがちな感じでやってみるよ。(2:38)

この程度なら (不要な弦は鳴っていないから) まだ大丈夫だね。(2:49)

慎重に丁寧正確に弾いてやれば大丈夫だね。(ちなみに) 僕はピックの丸い部分で弾くよ。(3:05)

でも、実際に僕が弾くときは、右手をブリッジ側の弦の上に添えて、若干ミュート気味なサウンドで弾く。

-playing(3:20)-

(3:30)

右手で音の響きを止める感じだね。(Robben は"shut off"という表現を使っている)

-playing(3:38)-

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。翻訳 山岸敦